

中園正樹

松田平田設計社長



作品例部門では、ガラスという素材のもつ特色を十分に理解し、独自の創造的な工夫があり、美しさと調和の点でデザインの完成度の高いことを評価軸として選定した。浅石・米澤案、橋本案では、メーカーが想定した素材の使い方とはまったく違う発想の視点でとらえている点に驚かされた。また、富樫・浅野案のように環境の共生などデザインに新しい価値観を見出す表現が可能なことをこのコンペを通じて広く知らしめることによって、多くの設計者がこうした課題に取り組むことに役立つのではないだろうか。提案部門では、私たちの生活の中で純粹に祈るという行為が少ないために空間に対するイメージがとらえにくかったのではないかと感じている。深尾案の蓄光ガラスブロックがもつ幻想的で厳粛な雰囲気はまさに聖堂であり、祈る心を誘っている点を評価した。また、今回は世界中を震撼させた昨年のWTC崩壊という事件に関する提案が数多くみられたが、その中でも特に藤瀬案は我々にエモーショナルな雰囲気を感じさせた。

阿部仁史

東北大学大学院教授



作品例部門については、ガラスという素材そのものを設計者がどのようにみて、自分なりに解釈をしているかという視点で評価した。またガラスの物質として、材料としての可能性をどこまで拡張できるか、それに向けどれだけトライしているかに興味があった。浅石・米澤案、橋本案は、優れた観察眼とソリューションの提示ができた作品だと感じている。今後もいろいろな製品が開発され出てくると思うが、設計者として製品そのものを真正面から受け止め、いろいろな可能性を引き出していくことができると考えている。

提案部門では、どのように祈りを具体的な行為として空間と結びつけて視覚化したり提示しているか、また私自身としてその祈りにどれだけ共感することができるかを評価の基準とした。深尾案では、祈りと空間、そしてガラスという材料を結びつけ、ひとつの祈りの行為として織り上げた点、そしてそれが結果として美しい情景を作り出している点に強く共感し金賞とした。

柏木浩一

アビタ代表



提案部門では、「人間の精神」と「建築という物質」を同じ祈りの空間の中でいかに組み合わせているかという視点で評価した。入賞作品では、本来別々であるといわれてきた精神と物質が同じ次元で上手く表現されており、深尾案はオーソドックスな提案であったが、いろいろな意味のバランスという点で非常にレベルの高い作品であった。藤瀬案では、WTCビルが崩壊し地中に反転する様子がガラスを用いて表現されていた。川東案はこれが祈りなのかという議論もあったが、他の作品ではみられない祈りのかたちを評価した。作品例部門では、新しい試みを取り入れた作品が目につき、同じガラス製品でも使い方によってまったく別のものに仕上がっている点に興味をもち選定の基準とした。その中でも、浅石・米澤案のガラスのチューブや橋本案のガラス繊維の布は非常に美しい仕上がりとなっていた。また中間案では、ガラスの特性を活かした使い方により非常に質感のあるガラスブロックで巧みに演出しているのが印象に残った。

飯島伸浩

日本電気硝子
執行役員 建材事業本部長



作品例部門は、ガラスブロック、ラピエ、ネオパリエ、ファイアライト、クリスタルクレイ、真空式ソーラーシステムの従来の製品に加えまして、グラソア、チュービーなど新商品からもご応募いただきました。ただ、今回三賞からガラスブロックを使った製品が消えてしまい、主催者側として少し残念だったとの思いはあるのですが、金賞のチュービー、銀賞のクラックノン、銅賞のグラソアと新商品が受賞作品に使われており、いっそう新商品開発に力を入れようとしています弊社の取り組みに非常に支えになると感じています。

提案部門につきましては、『祈りの空間に生きるガラス質』というテーマで、特に入賞された作品では、私たちの生活になじみの薄い祈りという概念が上手に活かされていたことに感心させられました。今回は既存の製品ばかりでなく、「ガラス質の新しいあり方」を加えておりますが、今後もさらなる新しいガラスのあり方について多数のご提案を期待したいと思います。